

『語彙ドン』収録語彙は どれほど役立つか

松下達彦（東京大学）

2019年11月29日作成

原文 (『語彙ドン』Vol.2 Lesson 1, STEP4 =予定)

統合医療とは、大きく言えばいわゆる西洋近代医学のパラダイム(考え方の枠組み)や成果を重視しつつ、しかし同時にそれを相対化し、より包括的な医学・医療のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。そもそも現在の医学は、さかのぼれば17世紀に西欧で起こった「科学革命」に起源を有するものであり、そのパラダイムの中心にあるのは、19世紀に成立した「特定病因論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因物質が対応しており、その原因物質を同定し、それを除去すれば病気は治療される」という病気観で、基本的に身体内部の物理化学的關係によって病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因物質→病気」という比較的単線的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定病因論の考え方が、感染症や外傷等の治療においては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の病」という表現があるが、うつなどの精神疾患を含め、慢性疾患等への疾病構造の変化の中で、こうした「特定病因論」のみでは解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、病いは身体内部の要因のみならず、ストレスなど心理的要因、労働時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、無数ともいえる要因が複雑に絡み合った帰結としての新進の状態として生じている、という視点がきわめて重要になっているのだ。

(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より、一部改)

初級語彙（旧日本語能力試験4級および3級の語彙） カバー率 62.9%

統合医療とは、大きく言えばいわゆる西洋近代医学のパラダイム（考え方の枠組み）や成果を重視しつつ、しかし同時にそれを相対化し、より包括的な医学・医療のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。そもそも現在の医学は、さかのぼれば17世紀に西欧で起こった「科学革命」に起源を有するものであり、そのパラダイムの中心にあるのは、19世紀に成立した「特定病因論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因物質が対応しており、その原因物質を同定し、それを除去すれば病気は治療される」という病気観で、基本的に身体内部の物理化学的關係によって病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因物質→病気」という比較的単線的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定病因論の考え方が、感染症や外傷等の治療においては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の病」という表現があるが、うつなどの精神疾患を含め、慢性疾患等への疾病構造の変化の中で、こうした「特定病因論」のみでは解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、病は身体内部の要因のみならず、ストレスなど心理的要因、労働時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、無数ともいえる要因が複雑に絡み合った帰結としての新進の状態として生じている、という視点がきわめて重要になっているのだ。

（広井良典（2013）『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』（朝日新聞出版）より、一部改）

初級語彙＋『語彙ドン』 Vol.1 収録語彙 カバー率 80.5% (=62.9+17.5)

統合医療とは、大きく言えばいわゆる西洋近代医学のパラダイム(考え方の枠組み)や成果を重視しつつ、しかし同時にそれを相対化し、より包括的な医学・医療のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。そもそも現在の医学は、さかのぼれば17世紀に西欧で起こった「科学革命」に起源を有するものであり、そのパラダイムの中心にあるのは、19世紀に成立した「特定病因論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因物質が対応しており、その原因物質を同定し、それを除去すれば病気は治療される」という病気観で、基本的に身体内部の物理化学的關係によって病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因物質→病気」という比較的単線的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定病因論の考え方が、感染症や外傷等の治療においては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の病」という表現があるが、うつなどの精神疾患を含め、慢性疾患等への疾病構造の変化の中で、こうした「特定病因論」のみでは解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、病は身体内部の要因のみならず、ストレスなど心理的要因、労働時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、無数ともいえる要因が複雑に絡み合った帰結としての新進の状態として生じている、という視点がきわめて重要になっているのだ。

(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より、一部改)

初級語彙+『語彙ドン』 Vol.1 収録語彙 + Vol.2 学習ターゲット語彙 カバー率 86.7% (=80.5+6.2)

統合医療とは、大きく言えばいわゆる西洋近代医学のパラダイム(考え方の枠組み)や成果を重視しつつ、しかし同時にそれを相対化し、より包括的な医学・医療のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

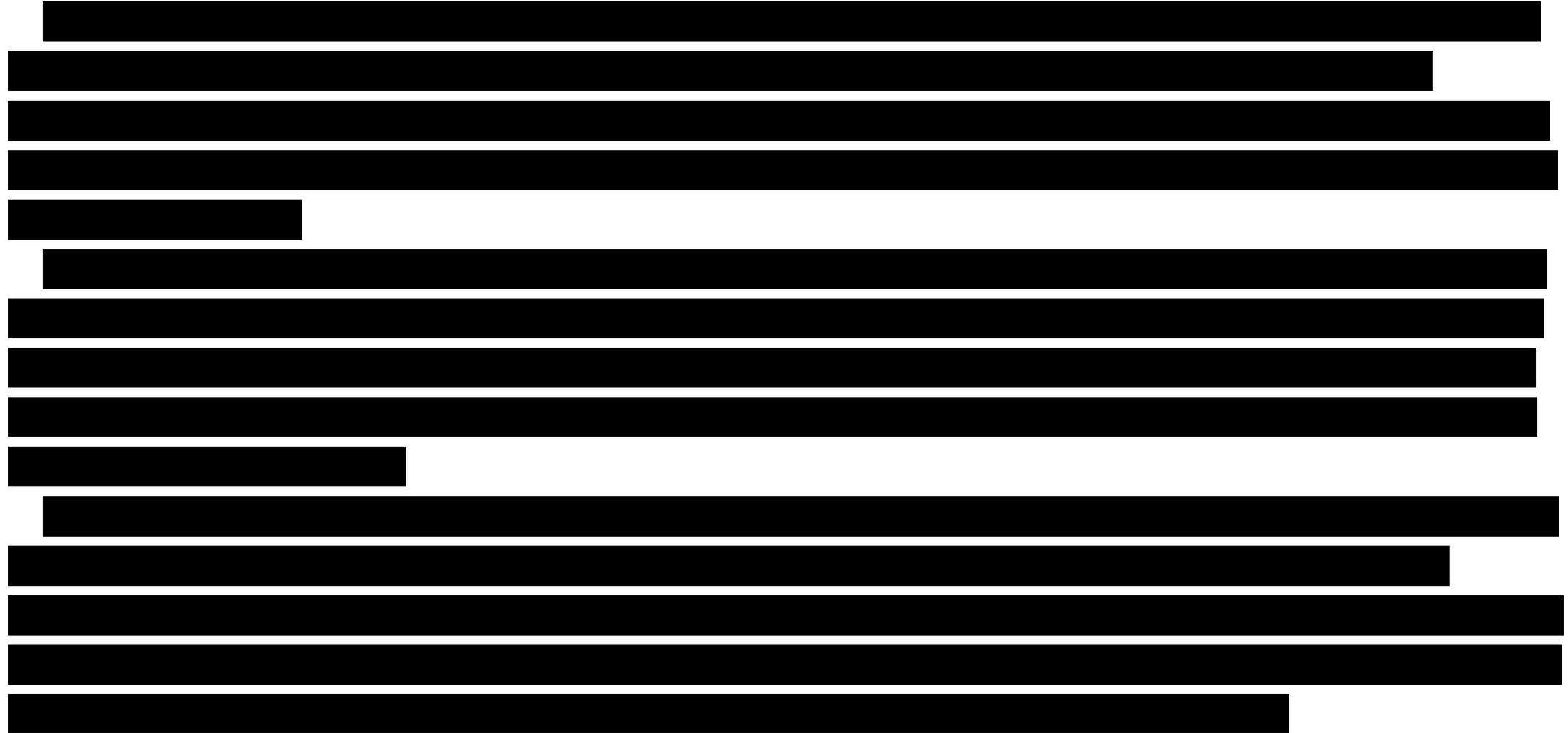
なぜこうした視点が重要になるのだろうか。そもそも現在の医学は、さかのぼれば17世紀に西欧で起こった「科学革命」に起源を有するものであり、そのパラダイムの中心にあるのは、19世紀に成立した「特定病因論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因物質が対応しており、その原因物質を同定し、それを除去すれば病気は治療される」という病気観で、基本的に身体内部の物理化学的關係によって病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因物質→病気」という比較的単線的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定病因論の考え方が、感染症や外傷等の治療においては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の病」という表現があるが、うつなどの精神疾患を含め、慢性疾患等への疾病構造の変化の中で、こうした「特定病因論」のみでは解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、病は身体内部の要因のみならず、ストレスなど心理的要因、労働時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、無数ともいえる要因が複雑に絡み合った帰結としての新進の状態として生じている、という視点がきわめて重要になっているのだ。

(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より、一部改)

学習者にとっての見え方 (未習時) 0%



(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より,一部改)

初級語彙 (旧日本語能力試験4級および3級の語彙) 学習後 62.9%

西洋医学の(考え方の)やを、しかしにそれを、よりな医学・のあり方をしているこうとする考え方をいう。

なぜこうしたがになるのだろうか。の医学は、ば17にでた「科学」にをものであり、そののにあるのは、19にした「」という考え方である。

これはに、「一つの病気には一つの原因がしており、その原因を、それをすれば病気はされる」という病気で、にの係に病気のが説明されると考えること、また「原因→病気」というな係がされていることにがある。こうしたや等のにでは非常に大きなを上げてきたことは確かなである。

ところがはどうか。「の」というがあるが、などのを、等へののの中で、こうした「」ではがな病気がになっている。こうしたにでは、はの、など、時間や社会との関わりなど社会、とのを、ともいえるが複雑にたとしてののとしてている、というがになっているのだ。

初級語彙＋『語彙ドン』 Vol.1 収録語彙 80.5%

■とは、大きく言えば■西洋近代医学の■（考え方の■）や■を■し■、しかし同時にそれを相対化し、より■的^{科学的}な医学・■のあり方を■していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。■現在の医学は、■ば17■に■で■た「科学■」に■を■ものであり、その■の中心にあるのは、19■に成立した「特定■」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因■が■しており、その原因■を■し、それを■すれば病気は■される」という病気■で、基本的に■の物理化学的関係に■て病気の■が説明されると考えること、また「原因■→病気」という比較的■的^{科学的}な■関係が■されていることに特徴がある。こうした特定■の考え方が、■や■等の■に■ては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな■である。

ところが現在はどうか。「現代の■」という■があるが、■などの■を含め、■等への■構造の変化の中で、こうした「特定■」■では解決が困難な病気が■一般的になっている。

■こうした状況に■ては、■は■の要因■ず、■など■的^{科学的}要因、■時間や社会との■など社会的要因、自然との■を含む環境的要因など、■ともいえる要因が複雑に■た■としての■の状態として生じている、という視点が■重要になっているのだ。

初級語彙+『語彙ドン』 Vol.1 収録語彙 + Vol.2 学習ターゲット語彙 86.7%

統合とは、大きく言えば西洋近代医学の（考え方の枠組み）や成果を重視し、しかし同時にそれを相対化し、より動的な医学・のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。現在の医学は、ば17にでた「科学」に起源を有するものであり、そのの中心にあるのは、19に成立した「特定論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因が対応しており、その原因を、それを除去すれば病気はされる」という病気で、基本的に内部の物理化学的關係にて病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因→病気」という比較的動的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定論の考え方が、や等のにては非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の」というがあるが、などの疾患を含め、疾患等への構造の変化の中で、こうした「特定論」では解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、は内部の要因のみならず、など動的要因、時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、ともいえる要因が複雑にたとしてのの状態として生じている、という視点が重要になっているのだ。

(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より、一部改)

初級語彙+『語彙ドン』 Vol.1 収録語彙 + Vol.2 学習ターゲット語彙+既習漢字語 90.2%

統合医とは、大きく言えば西洋近代医学の（考え方の枠組み）や成果を重視し、しかし同時にそれを相対化し、より的な医学・医のあり方を実現していこうとする考え方をいう。

なぜこうした視点が重要になるのだろうか。現在の医学は、ば17世に西で起こった「科学」に起源を有するものであり、そのの中心にあるのは、19世に成立した「特定病因論」という考え方である。

これは基本的に、「一つの病気には一つの原因物質が対応しており、その原因物質を同定し、それを除去すれば病気は治される」という病気で、基本的に体内部の物理化学的關係によって病気のメカニズムが説明されると考えること、また「原因物質→病気」という比較的線的な因果關係が想定されていることに特徴がある。こうした特定病論の考え方が、感や外等の治には非常に大きな効果を上げてきたことは確かな事実である。

ところが現在はどうか。「現代の病」という表現があるが、などの疾患を含め、性疾患等への病構造の変化の中で、こうした「特定病論」では解決が困難な病気がむしろ一般的になっている。すなわちこうした状況においては、病は身体内部の要因のみならず、など心理的要因、働時間や社会との関わりなど社会的要因、自然との関わりを含む環境的要因など、無数ともいえる要因が複雑に合った帰結としての新進の状態として生じている、という視点が重要になっているのだ。

(広井良典(2013)『人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理』(朝日新聞出版)より、一部改)